

成果の説明書

(氏名) 矢野修一	(学部) 経済学部
<p>1 重要事項</p> <p>◇論文執筆；</p> <p>高崎経済大学地域科学研究所発行『産業研究』第53巻第1・2号（2018年3月）に「グローバル化とガバナンスの岐路—『経済の脱政治化』の限界」を寄稿し、世界各地におけるポピュリズムの台頭を、資本主義による「脱民主主義化」の限界ととらえたうえ、グローバル経済のガバナンスの課題について考察した。</p> <p>◇書評へのリプライ；</p> <p>エリック・ヘライナー著／矢野修一ほか訳『国家とグローバル金融』（法政大学出版局、2015年）への書評が『季刊経済理論』第53巻第2号に掲載（評者・横浜国立大学名誉教授・上川孝夫氏）されたのを受け、これへのリプライを行った（『季刊経済理論』第54巻第2号、2017年7月）。</p> <p>◇アジア・コンセンサス研究会での報告・討論（2017年4月15日、9月23日、2018年2月3日、明治大学）；</p> <p>編著者として関わった『新・アジア経済論—中国とアジア・コンセンサス』（文眞堂、2016年）に続く研究書の出版に向け、全国各大学の研究者と議論を続けた。</p> <p>◇高崎経済大学経済学会2017年度第1回研究会コメント（7月5日、図書館会議室）；</p> <p>黒崎龍悟准教授による報告「アフリカにおける開発支援のモニタリング・評価に関する一視点～支援の複合的状況に着目して」へのコメント。</p> <p>◇創立60周年記念シンポジウム「高崎市製造業の特性と振興」におけるコーディネーター（7月29日、高経大111教室）；</p> <p>高崎経済大学地域科学研究所編『地方製造業展開—高崎ものづくり再発見』（日本経済評論社、2017年）の出版を受け、駒澤大学吉田敬一教授、高崎市副市長、市内中小企業の社長らをパネリストとして行われたシンポジウムのコーディネーターとして登壇。</p> <p>◇高経大学生と高経附生徒による「高大コラボゼミ」の企画および指導；</p> <p>2010年度～2017年度に続き、日本企業のケーススタディを柱とする「高大コラボゼミ」を企画し各種指導を行った。経営支援NPOクラブの支援を仰ぎつつ、学生・高校生による商船三井、東レ、デンカ、富士ゼロックス、ニチレイ、日本工営の訪問・インタビュー（8月10日）をアレンジし、9月9日の成果発表会につなげた（自身はニチレイ担当）。</p> <p>成果発表会当日は、高経大・高経附の現役大学生・高校生のほか、コラボゼミを経験した両校卒業生、高・大教職員、保護者、一般市民、マスコミ関係者等、数百名が出席した。</p> <p>◇『高大コラボゼミ 2017年度成果報告書』の編集補助；</p> <p>2017年度の高大コラボゼミに取り組んだ大学生の感想・コメントをとりまとめ、成果報告書の編集を補助した。</p> <p>◇高崎経済大学矢野ゼミナール卒業論文集『経済学研究年報』第25号（2018年3月刊）の監修および編集；</p> <p>1994年3月の創刊以来、『経済学研究年報』の監修・編集を継続。2017年度も総勢12名の卒業論文の執筆を指導し、卒業論文集を完成させた。印刷・製本された卒業論文集は、本人のほか、保護者やゼミの後輩らに配付された。</p>	
<p>2 その他の事項</p> <p>◇fromページ主催「夢ナビ大阪」でのライブ講義（2017年6月14日、インテックス大</p>	

阪)；

さまざまな学問分野を高校生に紹介する「夢ナビライブ」の大阪会場で「トランプ後のグローバル経済」と題する模擬授業を実施（その後、ウェブ配信）し、「国際政治経済学」を紹介。授業後、高校生との質疑応答。

◇公立大学協会 平成 29 年度 副学長等協議会「教育改革分科会」講演（2017 年 7 月 18 日、東京グランドホテル）；

「大学教育におけるゼミ活動の意義～『出会い』の場の醸成」と題する講演にて、ゼミ活動の実践報告を行った。

◇高崎経済大学地域科学研究所主催 2017 年度第 1 回地域めぐり（2017 年 10 月 3 日）；

高崎市民による「ものづくり」の現場見学（昭和電気鋳鋼、キンセイ産業、秋葉ダイカスト工業、牧野酒造）に講師として同行。

◇静岡県立伊東高校「出前授業」（2017 年 10 月 24 日）；

伊東高校において 1 年生・2 年生向けに「トランプ政権とグローバル経済」と題する模擬授業を実施。

◇東北学院大学第 18 回 FD 研修会での講演（2017 年 11 月 2 日、東北学院大学土樋キャンパス）；

東北学院大学 FD 研修会において「『出会い』の場としての学部ゼミの可能性」と題する基調講演実施。多賀城キャンパス、泉キャンパスにもライブ配信され、講演後、活発な質疑応答がなされた。

◇群馬県教育委員会等主催「群馬県 SSH・SGH・SPH 等合同成果発表会（最終発表）」における指導・助言（2018 年 3 月 11 日、桐生市市民文化会館）；

県内 SSH・SGH・SPH 指定校の実践活動報告会において、SGH 指定校を中心に助言するとともに、全体の講評を行った。

◇高崎経済大学図書館長としての活動；

館長として図書館の効果的運営、特にラーニング・コモンズの機能の強化（1 階奥ラウンジを留学生と国内学生による英語コミュニケーションの場として設定したこと、HP における「学習に役立つリンク集」の充実など）に努めた。

◇ポシビリズム研究会主宰；

1998 年から活動を続けるポシビリズム研究会（ゼミ卒業生との研究交流、共同研究を目的とする）の単独開催はなかったが、卒業生によるスピノフ研究会（決済制度ゼミ）に合流（2018 年 1 月 27 日、高崎経済大学図書館会議室）し、卒業生・現役学生の交流の場を広げた。

◇就活サポート事業実施（2018 年 3 月 16 日、TKP 東京駅八重洲カンファレンスセンター）；

ゼミ卒業生の支援を受けながら、現役ゼミ生のエントリーシートの作成や面接などについて指導を行った。

3 次年度以降の計画・抱負

研究面では、引き続き様々な分野の研究者と交流しながら、グローバル経済のガバナンス問題について考察を深める。もう少しアウトプットを高めたい。

教育面では、例年通り、授業の高評価（学部平均点+10 ポイント）を維持できるよう、講義内容の学問的基盤をさらに強化するとともに、授業の準備に努める。また、充実したゼミ活動を通じ、次世代を担う若者に「3つの出会い」（「人との出会い」「ものの方見方・考え方との出会い」「新たな自分との出会い」）の場を提供し続けたい。

図書館長としては、図書館のラーニング・コモンズ機能のさらなる充実を図るべく努力していく。